

市長賞

泥水を浴びた昭和の強いバネ

森 藤 やよい

【評】 昭和には戦前、戦中、戦後があり、ひもじい思いに耐え、どん底から這い上がり、高度成長を成し遂げた自負がある。戦争一色に染まり、反戦を唱えれば白い目で見られ、お国のためと、犠牲に耐え前へ進んできた。敗戦を迎えれば、今までの考え方は全面否定され、豊かさを求め一斉に走り出した。苦しさの中で耐えてきた日々が強いバネとなり、人々を支え、夢に向かっての一步一步が楽しい日々となった。自分達が明日を作るといふ思いとともに。